

総論

満点	100点	目標得点	70点	試験時間	80分	偏差値	薬:66 薬科:65
大問数	3	小問数	36				
【解答形式】		選択式	36/36問	記述式	0/36問	論述式	0/36問
【問題難易度】		C	3/36問	B	13/36問	A	20/36問
※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：今年度の問題は、昨年同様、長文のみだが、それぞれの長文の語数は800語程度であり、問題文と設問のレベルは3つとも標準からやや難の間である。また、解答形式はすべてマークシート式であり、記述式や和訳といった問題は一切なかった。
- 2：出題内容は、昨年と同様に長文が3題のみであった。その中で、空所補充、語句の意味、同意文選択、内容一致、並び替えなどの問題がふくまれており、読解のみの問題の中で、しっかりと英語の総合力が試されている。単語レベルは『でか単』のPART3を超えるものも出題されており、かなり高いレベルが要求されている。文法に関しては、マニアックなものではなく、むしろ基本的な知識を深く理解し、そして使いこなせるかを問う問題がだされている。
- 3：長文が3つある点は昨年度と変わっていないが、その3つの長文のレベルがある程度均一化されたことが大きな違い。昨年問題は、大問Ⅰがかなり難しく、残り大問Ⅱと大問Ⅲはかなり簡単であった。今年問題は上記のように、大問3問とも標準からやや難の間のレベルで収まっている。また、内容的にも、今年度の問題において、大問Ⅰでは生物学を、大問Ⅱでは心理学を、そして、大問Ⅲでは人類学をテーマにして読解問題が作られており、昨年度のいかにも医学系の話(癌と結核の話)とはかなり異なっていた。薬学部(医学部も含む)はいかにも病気に関する話がメインになると思われるが、実は生物学や心理学などの学問にも密接に関わっており、これらの分野に関する基礎知識や単語もしっかりと押さえておく必要があることが改めて実証された。

こんな力が求められる！

速読力以上に精読力が必要とされている。一部の問題を解くためには、問題の英文を再度読み返す必要があるからである。単語力に関しても、やや難しいレベルが必要とされている。そして、その単語の種類も医学系のものから生物系のもの、そして心理学系のものまで多岐に渡っている。また、文法力が試されるのは並び替えの問題のみだが、一見簡単そうに見える文法でも、かなり深いところまで知っていなければ解けない問題になっている。問題自体は極端に難しいというわけではないが、長文を解く中で英語のいろいろな分野の力が試される問題になっているので、英語の総合力がなければ対応できない問題であることは確かである。

お茶ゼミのテキストでは、『でか単』『完熟』ともにPART3までマスターをしなければ合格ラインには届かないだろう。また、OS英語もしくはAdvanced英語の授業で上記の総合力を養い、長文マラソン(理系コース)や過去問で理系的な知識や単語を学習する必要がある。

(注)次ページからの時間配分には見直しをするための5分が差し引かれている。

【I】

予想配点	35/100 点	時間配分の目安	25/80 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 868 words 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』『完熟』ともに PART3 [長文テーマ] 声の周波数と体大きさの関係(本文ではウシガエルを例に挙げている)		
出題形式	空所補充、並び替え		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
問 1	1 A 2 A 3 B 4 A 5 A 6 B 7 A 8 A 9 A		
問 2	10-11-12 B (10-11-12 は 3 つでワンセット)		
問 3	13 A		
問 4	14 A		
問 5	15-16-17 A (15-16-17 は 3 つでワンセット)		
問 6	18 B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	OS 英語もしくは Advanced 英語のテキスト、長文マラソン(理系コース)		

●本大問の特徴・概要

英文は 868 語とあまり長くなく、内容に関しても、低周波に関しては馴染みがない受験生も多いと思うが、ウシガエルの内容に関しては理解しやすいと思われる。単語は難しいものもあるが文脈から推測しやすいものも少なくない。英文自体が読みやすいので、設問も解きやすい。

問題の内容は空所補充と並び替えの 2 種類のみであり、比較的淡白な問題になっている。概要は、声の大きさと体の関係をウシガエルの例を用いての話である。ウシガエルの鳴き声がなぜ低音なのかを生物学的な側面から捉えていく話になっている。

●注目すべき小問

注目すべき小問は問 1 の 6 である。“larger males usually win conflicts with smaller males for favored territories on the pond’s bank, but fighting can be risky, especially for the () bullfrogs.”この空欄に当てはまる候補は明らかに smaller もしくは smallest の 2 つに絞られる。ここで注目すべき単語は下線部の smaller、especially、そして複数形の bullfrogs の 3 つである。まず、especially 「特に」という単語を使っていることから、空欄の部分には新情報が必要となるとわかり、空欄に前出の smaller を入れるのではわざわざ especially を使う意味がない。この段階で最上級の smallest が答えとして絞られる。また、the smallest bullfrogs と複数形になっているがこれは「最も小さいサイズのウシガエルのグループ」と考えるとわかりやすいだろう。one of the ~est 名詞(複数形)「最も～な名詞の 1 つ[1 人]」といった表現を考えるとより理解しやすいはずだ。

もう 1 つの注目すべき小問は、問 3 である。この問題の解答の一部は“it paid to back off rather than risk injury”であり、難しい点が 2 つある。1 つは形式主語構文を使用しているが、be 動詞ではなく、一般動詞の paid(「割りに合う」)を用いている。形式主語構文で一般動詞を使うことは少なくはないが、pay の意味が難しい。また、to 不定詞の to の後ろにある back はもちろん動詞だが、back を動詞だと認識できるかどうかは案外難しいものである。この 2 つの点に気付かない受験生にはまず正解はでないであろう。最終的には、このようなことを知識だけでなく、実際に自分が英文を書くときにしっかりと使いこなせるかがポイントになる。

【Ⅱ】

予想配点	35/100 点	時間配分の目安	25/80 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 830 words 『でか単』『完熟』レベル] 『でか単』『完熟』ともに PART3 [長文テーマ] 人間は周りにいる大多数の人間の意見に従う		
出題形式	同意語の選択、同意文の選択、指示語の内容選択、整序作文		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
問 1	19 B		
問 2	20 A		
問 3	21 B		
問 4	22 B		
問 5	23 A		
問 6	24 A 25 A 26 B 27 A 28 B		
問 7	29 30 31 A (29-30-31 は 3 つでワンセット)		
問 8	32 A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	○ S 英語もしくは Advanced 英語のテキスト、長文マラソン(理系コース)		

●本大問の特徴・概要

この問題も 830 語とあまり長くない。英文の抽象度も高くない。

内容は、人間に対してある実験を行う。その実験とは、自分の周りにいる人たちの意見によって人間がいかにその他人から影響を受けるかということである。この問題は、大問 1 と少し異なり心理学的な側面を意識した内容である。

問題形式の概要は空所補充、同意語の選択、同意文の選択、並び替えの 4 種類である。

●注目すべき小問

注目すべき小問は、まず問 4 である。この問題では“take ~ as read”：「～を決定事項とみなす、判断する」という熟語であるが、この熟語を知っている受験生はまずほとんどいないであろう。しかし、重要なことは、まずは強引にでも直訳を試みることである。直訳をすると「～を読まれたものとして受け入れる」となり、上記の熟語の意味と近い意味を引き出すことができる。この問題に関わらず、直訳をすることである程度訳せる熟語は多いので、即座に諦めずに粘り強くチャレンジをし続けることでひも解ける問題の代表例である。また、直訳とすることで熟語の暗記をするためには完熟での学習が欠かせない。完熟には熟語の直訳が多く掲載されており、熟語力はもちろんのこと、今回のような問題にも十分に対応できる類推力を養えることができるからだ。

次に注目すべき問題は、問 6 の 26 である。people simply irrationally prefer to do what others do 「人々は不合理に他人のすることと同じことをすることを好む」この表現と同意のものを選ぶのだが、「自分の意思とは無関係に、学校では多くの生徒たちが他の生徒と同じように行動する」と考えると school が解答になり、「自分の意思とは無関係に先に始めた人に従う」と考えると following initiative-taker が解答になってしまう。また、問 6 の 28 も同様に the first people to decide tell the others what to think 「決定をまず初めに決めた人々は他の人に何をすべきかを伝える」という表現も上記の following initiative-taker と考えることもできれば、周りの人間を率いる存在である leader と考えることもできる。したがって、このような問題に対しては 3 分程度考えて判断できなければ、割り切って次に進み、確実に取れる問題に時間を割くことである。この問題を落とすことよりもハマってしまい時間をロスすることの方が致命的だからである。

【Ⅲ】

予想配点	30/100 点	時間配分の目安	25/80 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 803 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』『完熟』ともに PART3 [長文テーマ] 人間が道具を作る能力とそのプロセス		
出題形式	空所補充、同意語選択、内容一致		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
問 1	33A	問 2	34B
問 3	35A	問 4	36C
問 5	37A	問 6	38B 39B 40B 41C 42C
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	O S 英語もしくは Advanced 英語のテキスト、長文マラソン(理系コース)		

●本大問の特徴・概要

この問題も 803 語とあまり長くない。内容の抽象度も高くないが、問題文には relic「遺品、遺跡」、implement「道具」、cobble「(丸)石」などがあり、設問の選択肢にも sparse「まばらな、点在する」や opportunistic「日和見主義の、ご都合主義の」といった難しい単語が含まれているので文意が理解できても、どの選択肢を入れるべきかが難しい。また、同意文の選択では、かなりきめ細かく読んでいかなければ、対応できない問題が多い。内容の概要は、人間が道具を作る能力とそのプロセスに関して、いろいろな側面から複数の人間が議論をしている。

●注目すべき小問

まず、問 3 と問 4 は解ける必要がない。というのも、問 3 であれば単語 sparse「まばらな、点在する」という選択肢が正解となり、問 4 であれば opportunistic「日和見主義の、ご都合主義の」という選択肢が正解となり、正解となる選択肢があまりに難しいからである。また、問 6 はかなりの精読力を必要とし、また繰り返し英文を読み返すことも必要となるので、明らかに速読力も必要になる。素早く、そして正確に読むためには、常日頃から構造分析をした後、訳さないでも理解できるレベルになるまで音読を繰り返す習慣が絶対に必要となるので、お茶ゼミのテキストと音 - Dock を使った学習が効果的である。

ちなみに、この問題の④は誰の考えであろうか。最終段落に Toth の行った試験から得た結果をこのように記載しているが、実際には本文中の誰の考えでもないという解答が有力である。その根拠を調べていこう。注目すべき箇所は④の tools と本文の flakes という 2 つの単語である。本文(最終段落の上から 5 行目からの Kanzi has ~ earliest toolmakers)において Kanzi は確かに「鋭い石の破片を作る革新的な思考を示した」とあるが、④の「鋭い石の道具を作ることへの革新的な体系を作りだした」という文とは少し異なる。さらに、flakes に手を加えると tools になるので、tools(道具)と flakes(破片)は明らかに別物である。しかし、system と thinking、tools と flakes がある程度同じものであるという解釈をすれば、Toth の考えと判断できなくはない。したがって、どちらになるかが限定できない。

また、⑤に関しては、本文の全体的な意味から考えると Toth の考えのように思われるが、本文中の誰の考えでもない判断してもよい。というのも、The most important という最上級表現が本文中には明確には述べられていないからである。正しい形の石を選ぶことが重要だとは記載されているが、はたしてそのことが最も重要なのであろうか？ この問題もどちらにも限定しきれない。いずれにしても「Toth の考え」、もしくは、「文中の誰でもない」と、人によって意見が分かれてしまうので、ハマってしまい時間を無駄に費やしてしまうようであれば、この 2 問は捨てて、次の問題に行ってしまうても支障はないと思われる。